

輸液ポンプ

仕 様 書

令和 8 年 1 月

地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪急性期・総合医療センター

# I. 仕様書内容

## 1 借入物品及び構成内訳

輸液ポンプ 一式

### 【機器構成】

(1) 輸液ポンプ 120 台

※搬入、調整、設置、接続（機器への接続やオンライン接続等）、付帯工事等の借入に係る全ての諸経費を含むこと。

※大阪急性期・総合医療センター（以下「センター」という。）の電子カルテシステムへ接続する場合は、事前に情報企画室に確認の上、実施すること。

## 2 技術的要件の概要

本件借入物品に係る性能、機能及び技術等（以下「性能等」という。）の要求要件（以下「技術的要件」という。）は以下に示すとおりである。

以下に示す要求要件はセンターが必要とする最低限の要求要件を示している。

## II 借入物品に備えるべき技術的要件

(性能・機能に関する要件)

輸液ポンプ 一式は、以下の要件を満たすこと。

### 1 輸液ポンプの基本性能に関して、以下の要件を満たすこと。

- (1) 予定量の設定値が輸液流量より小さい場合、入力値の確認（誤設定の確認）をうながす機能を有すること。
- (2) ローラークレンメの閉じ忘れによるフリーフローを防止する機能を有すること。
- (3) ローラークランプ開け忘れの際は、閉塞警報が発生しない構造であること。
- (4) 患者が間違えてローラークランプを触らない構造であること。
- (5) 残時間機能を有すること。（輸液終了までの目安とするため）
- (6) 2分間以上無操作の場合、操作忘れを警報で知らせる機能を有すること。
- (7) メンテナンスアナウンス機能として、設定した期間が経過すると電源入れた際にメンテナンスの必要性を知らせる表示機能を有すること。
- (8) 輸液積算量表示値を『0（ゼロ）』に設定できる機能を有すること。
- (9) 流量の設定範囲は1～600mL/hまで対応していること。
- (10) 流量精度は±10%以内であること。
- (11) チューブを完全に押しつぶさない送液方式であること。
- (12) 輸液セットの位置ずらし時間は、72時間に1回であること。
- (13) 滴下センサーなしの状況でも使用出来ること。
- (14) 設定変更なく、輸血用途に使用可能であること。
- (15) フリーフローを防止する機能は電源等の補助なく、確実に作動し、輸液セットのローラー

クランプが確実に閉まる機能であること。

- (16) 不用意な操作を防ぐために、輸液セットのローラークランプはポンプ内部に装着可能であること。
- (17) 患者の状況を考慮するため、日中と夜間で画面輝度の変更が可能なこと。
- (18) 患者の状況を考慮するため、日中と夜間でインジケータ輝度の変更が可能なこと。
- (19) 患者の状況を考慮するため、日中と夜間で警報音量の変更が可能なこと。
- (20) 気泡検知感度を3段階で切り替えることができる機能を有すること。
- (21) 閉塞状態は、ポンプの上流・下流それぞれで検出できること。
- (22) 閉塞警報圧力（閉塞圧レベル）を3段階で切り替えることができる機能を有すること。
- (23) ポンプより下流側の内圧状態を表示させる機能を有すること。
- (24) 下流側の内圧状態は、5段階で表示すること。
- (25) 内蔵バッテリーの残量は、3段階以上のレベルで表示できる機能を有すること。
- (26) 内蔵バッテリーの充電は、約3時間で可能であること
- (27) 内蔵バッテリーでの稼動は、約3時間であること
- (28) 内蔵バッテリーには、Li-ion 電池を採用していること。
- (29) 持ち運びを考慮し外形寸法は110（幅）×230（高さ※突起部を除く）×200（奥行）mm以内であり、質量は2.0 kg以下であること。
- (30) 本体表示部は、液晶画面を搭載していること。
- (31) 万一に備えて、警報の対処方法をポンプ内で文字にて確認出来る機能を有すること。
- (32) 動作異常が疑われる時などのため、1000件以上の動作履歴を確認できるヒストリ機能を有すること。
- (33) 破損したポンプの使用を防ぐために、衝撃検知機能を搭載していること。
- (34) スタンドへの取り付け取り外しがワンタッチで可能なポールクランプを有すること。
- (35) ポンプの取り付け取り外しがワンタッチで可能なポールクランプを有すること。
- (36) 無線 LAN を内蔵し、IEEE 802.11a/b/g/n 2.4GHz/5GHz に準拠していること。
- (37) JIS T 0601-2-24:2018 に適合していること

### Ⅲ その他の要件

#### 1 職員研修及び技術支援

- (1) 受注者は借入物品の取扱説明を実施すること。
- (2) 受注者はあらかじめ、借入スケジュール（借入機器の納品日や取扱説明日などのスケジュール）をセンターに示した上、導入の経過・進捗状況を適時センターに報告すること。
- (3) 必要なマニュアル・教材及び手引書については、日本語で記載したものを1部以上提出すること。
- (4) センターの医療従事者が操作方法を熟知し、確実に使用ができるまで受注者が責任を持って研修・技術支援を行うこと。

#### 2 設備条件

- (1) 借入物品の設置場所は、センターが指定する場所に設置すること。詳細はセンター職員に確認すること。
- (2) 導入に必要な搬入・据付・調整・接続・敷設費用・オンライン接続・付帯工事費等の全て

の諸経費は受注者の負担とするものとし、日常業務に支障がないように行うこと。

- (3) 新たに電源コンセントを使用する場合や現有機器と調達物品の電気容量が異なる場合は、事前に施設設備管理グループに確認し、実施すること。
- (4) センターの電子カルテシステムを含む院内ネットワークやインターネットへ接続する場合は、事前に詳細接続図などを用いた上で、情報企画室に確認し、実施すること。
- (5) 借入物品を天井及び天井内に設置する場合や設置するにあたり電源等が必要な場合は、センター職員に確認し、受注者の負担にて取り付け、復旧すること。  
また、搬入、据付時に建物および備品に損傷が起きた場合、受注者が責任を持って現状復帰すること。

### 3 アフターメンテナンス・サービス

借入期間中のアフターメンテナンス・サービスは以下の要件を満たすこと。

- (1) 2年に1回の定期点検がメーカーにより実施されること。
- (2) 落下・衝撃警報発生時や流量試験等がメーカーによる点検に含まれること。
- (3) 定期点検時、院内にてメーカー技術者派遣による実施が選択可能なこと。
- (4) 2年に1回、バッテリーの定期交換が実施されること。
- (5) 2年に1回、防滴パッキンの定期交換が実施されること。
- (6) 輸液ポンプの総送液量が2,700Lを超えた場合、フィンガーユニットの交換が実施されること。
- (7) 借入期間内における修理費用及び補修部品費用が含まれること。
- (8) 輸液ポンプのソフトウェアバージョンアップが必要に応じて実施されること。
- (9) 輸液ポンプ導入時の無線設定が含まれること。
- (10) 代替機器の貸与が含まれること。
- (11) サービスエンジニア体制が整っていること。
- (12) センターを被保険者とする動産総合保険に加入すること。なお、保険料については受注者が負担すること。

### 4 借入期間

令和8年4月1日から令和14年3月31日まで（72か月）

### 5 その他

- (1) 借入物品のうち「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく製造承認が必要な医療機器に関しては、入札時点で同法に定められている製造の承認を得ている物品であること。
- (2) 借入物品の運搬、据付調整及び職員研修にかかる諸費用は全て受注者の負担とし、借入物品の運搬、設置及び据付調整は所定の位置に借入開始日までに行うこと。
- (3) 借入物品の納品にあたり知りえた情報等の使用及び第三者への提供並びに情報等の複写及び複製については厳に禁止する。このことは、業務終了後においても同様とする。
- (4) 必要に応じて、センター指定の様式にて、調達物品の仕様データ（商品名、製造番号など）を提出すること。その際、借入物品の性能等について説明を求められた場合は誠実に回答すること。

- (5) 当技術的要件はセンターが必要とする最低限を示しており、借入物品の性能等がこれを満たしていないとの判定がなされた場合には落札決定の対象から除外する。
- (6) 借入物品は、入札時点で製品化されていること。
- (7) 納入までの間に、借入物品の仕様変更やソフトウェアのバージョンアップがあった場合には、センターと協議し、最新の物品を納入すること。
- (8) 電子カルテなどの病院情報システムに接続予定のある借入物品については、センター指定のネットワークセキュリティチェックリストを提出すること。
- (9) 本仕様書に記載のない事項は、その都度協議に基づいて決定すること。
- (10) 借入期間満了後、受注者はセンターに機器を無償譲渡するものとする。